

J R 東日本のローマ字表記

丹羽 一彌

はじめに

退職後は毎年北海道や東北を旅行して、いろいろな事物を見てきた。2015 年は駅を観察することにした。そこで2月26日～3月1日と3月6日～9日、J R 東日本の新幹線と東北北部の在来線で、駅とその環境などを見て回った。本稿ではそのとき見た駅名のローマ字表記について述べる。以下で取り上げる駅名とその表記は当時のものであって、その後それらに変更があったかどうかは確認していない。

1 問題点

駅のホームの駅名表示板には、八戸・はちのへ・Hachinohe のように3種類の文字が使われている。漢字が難しく読めない駅もあるので、平仮名で読み方を表している。J R の平仮名表記は日本語の正書法に従っていて、同じオの長音でも次のように書き分けているから、平仮名の表記がその駅の正式な名称を表示していることになる。

東京 トーキョー とうきょう
 大宮 オーミヤ おおみや
 郡山 コーリヤマ こおりやま
 蔵王 ザオー ざおう

常磐線に「J ヴィレッジ」という漢字や平仮名以外の駅ができた。時刻表によれば、その平仮名表記は「じえいびれっじ」とあるから、これが正式な駅名であろう。

ローマ字の表記は、日本語の読めない人に駅の名称を伝えるためのものである。しかし J R 東日本のローマ字表記には次のような問題点がある。

- 1 表記が不統一である。
- 2 日本語の語構成を無視している。
- 3 駅名以外の内容を表示をしている。

以下でそれぞれを見ていく。

2 表記の不統一

表記の不統一とは、同じ一つの駅の名称が異なる形で表記されることである。新幹線の駅には、東京や仙台のような単純な地名の駅もあるが、新青森や水沢江刺のように複合のものもある。問題はこの複合形の駅名であって、同じ駅のローマ字表記が異なって表記されているのである。

J R 東日本の新幹線の各駅には、その路線の時刻表（会社の表記規準に従って印刷され

たと思われるもの) が張り出されている。上の複合の駅名について、東京駅で見た時刻表のローマ字表記と現地の当該駅のホームでの表記と比べると、表1のようになり、*を付けた駅は両者で異なっている。JRのローマ字表記はヘボン式であるが、オの長音はoの上の横棒で表されている。以下では簡略化のために長音の横棒は省く。

表 1

	時刻表	当該駅ホーム
① 新+地名		
新青森	Shin-Aomori	Shin-Aomori
新花巻	Shin-Hanamaki	Shin-Hanamaki
新白河	Shin-Shirakawa	Shin-Shirakawa
② 地名+名詞		
くりこま高原	Kurikoma-Kogen	Kurikoma-Kogen
上毛高原	Jomo-Kogen	Jomo-Kogen
* かみのやま温泉	Kaminoyama-Onsen	Kaminoyamaonsen
③ 広い地名+地点名や駅名		
いわて沼宮内	Iwate-Numakunai	Iwate-Numakunai
越後湯沢	Echigo-Yuzawa	Echigo-Yuzawa
本庄早稲田	Honjowaseda	Honjowaseda
④ 地名+地名		
七戸十和田	Shichinohe-Towada	Shichinohe-Towada
* 水沢江刺	Nizusawa-Esashi	Mizusawaesashi
* 白石蔵王	Shiroishi-Zao	Shiroishizao
* 那須塩原	Nasu-Shiobara	Nasushiobara
* 燕三条	Tsubame-Sanjo	Tsubamesanjo
* 安中榛名	Annaka-Haruna	Annakaharuna
⑤ その他		
* さくらんぼ東根	Sakurambo-Higashine	Sakurambohigashine

駅名のローマ字表記は、表1で見た時刻表と当該駅のホームだけではなく、次のところでも見られる。

 当該駅の駅舎や駅ビルの入口

 隣の駅のホームの表示板

 その駅を通る優等列車の車内の電光案内

駅舎や駅ビルの入口には、漢字とともにローマ字の駅名も出ている。これは全部大文字の

場合もあるが、本稿では大文字と小文字の相違は無視する。各駅のホームの表示板の下側左右には隣の駅名が出ていて、ローマ字での表記もある。新幹線や在来線特急などの客室出入口の上には電光の案内板があり、それには英語による案内も出るので、駅名のローマ字表記が見られる。

表1に上の3種類を加えた5種類の表記を一覧表にすると、表2のようになる。ハイフンで切られている場合は□-□、一語扱いで連続している場合は□□とし、時間の都合などで確認できなかったものは空白とする。

表2

	時刻表	ホーム	駅建物	隣の駅	電光板
①新青森	□-□	□-□	□-□	□-□	□-□
新花巻	□-□	□-□	□-□	□-□	□-□
新白河	□-□	□-□		□-□	□-□
②くりこま高原	□-□	□-□		□-□	□-□
上毛高原	□-□	□-□	□□	□-□	□-□
かみのやま温泉	□-□	□□	□-□	□-□	□-□
③いわて沼宮内	□-□	□-□	□-□	□-□	□-□
越後湯沢	□-□	□-□		□-□	□-□
本庄早稲田	□□	□□	□□	□□	□□
④七戸十和田	□-□	□-□	□-□	□-□	□-□
水沢江刺	□-□	□□	□□	□□	□□
白石蔵王	□-□	□□		□□	□□
那須塩原	□-□	□□	□□	□□	□□
燕三条	□-□	□□	□□	□□	□□
安中榛名	□-□	□□		□□	□□
⑤さくらんぼ東根	□-□	□□	? □ □		□□

以下では、新幹線以外の駅も参照しながら、グループごとに見ていく。

第一グループでは全てが一致している。これは、先行している東海道新幹線の新横浜や新大阪などに準じて、在来線の中心駅とは異なる新幹線の駅として「新+都市」としたのであろう。この「新○○」を一般化して「前接形式+地名」とすると、新幹線以外では北山形、南米沢、東能代、上湯沢などがあるが、これらには全て Kita-Yamagata のようにハイフンが入っている。このグループではハイフンを使うことが原則である。

第二グループ。名詞の「高原」では○○-Kogen が多い。新幹線以外の安比高原、ゆだ高原、面白山高原や長野県の聖高原でも○○-Kogen であって、JR東日本の表記は一定である。ただ上毛高原の駅ビルだけが JOMOKOGEN である、このことから、この駅ビル全体

の管理や駅名表記の責任はJR以外かもしれないと推測される。

次の「温泉」は、かみのやま温泉でホームだけが連続した形である。この地方に〇〇温泉という駅が多くあるが、陸羽東線では鳴子温泉や赤倉温泉など、〇〇-Onsen で統一されている。しかしそれより北の青森・秋田・岩手三県では問題のある駅も多い。

奥羽本線の大鰐温泉は特急の止まる駅であるが、そのような駅でも、駅の中に2種類の表記が併用されている。

上りホーム	Owani-Onsen
下りホーム	Owani-Onsen と Owanionsen
駅舎正面	Owanionsen

しかし当該駅以外で不統一はない。

特急の電光板案内	Owani-Onsen
隣の駅のホーム	Owani-Onsen

花輪線では、大滝温泉のホームの表示板はOtaki-Onsen であるが、その横の倉庫のような建物に貼り付けられた板には OTAKIONSEN と書かれている。また湯瀬温泉では、ホームの表示には Yuze-Onsen と Yuzeonsen、反対側の使われていないホームには Yuze Onsen という表示があって、一つの駅で合計3種類がある。駅舎の入口では YUZEONSEN である。

このように〇〇温泉という駅では複数の表記が混在する場合もあるが、無人駅などに古い掲示が残っているということもある。上の大鰐温泉駅のような例は別としても、古いものを整理すれば、〇〇-Onsen に統一されるのではないだろうか。

以上のように考えると、〇〇温泉ではハイフンが入る形が普通と思われるので、ホームの Kaminoyamaonsen にもハイフンを入れ、この駅の他の表示に合わせるべきである。

この「地名+名詞」というグループでは、名詞が高原や温泉以外の駅でも不一致が見られた。花輪線の荒屋新町では、駅正面の表示は Arayashimmachi であり、上りと下りホームの表示も同様であった。ところが通路には ARAYA SHIMMACHI という二語に分けた表示が見られた。この駅はこの辺りでは大きな駅であって、駅員もいる。このような駅でも不一致はある。

ただし同じ駅内でのローマ字表記の不一致はJR東日本に限ったことではない。JR西日本の加古川線に「日本へそ公園」という駅がある。2015年、この駅で2種類の表示を撮影した。一方は Nihonhesokoen、他方は NIHON HESOKOEN と切れている。「近畿の駅百選認定駅」という看板まで出している駅であるが、駅名の表記がこの有様だから、詳しく調査すればJR西日本も問題が多いかもしれない。

第三グループ「広い地名+地点名」では全部の駅で一致している。この構造ではハイフンを入れるのが普通に思われるが、本庄早稲田は、時刻表を含めて、全て連続した形である。このことから、本庄早稲田という駅名の構造は他のグループに属するかもしれないとも考えられる。この駅の表記については、ホームの柱に付けられた縦書き表示板の下部に

二段になっているローマ字 Honjo と Waseda があったりして、不明な点が多い。

この旅行の終りごろになって、この本庄早稲田などで、駅の出口付近に設置されている駅周辺の案内図に、次のような表記があるのに気付いた。

本庄早稲田 Honjo Waseda Station North Gate Area Map
かみのやま温泉 Kamkinoyama Onsenn Station Area Information

これを表 1 の表記と比べると、次のようになる。

	本庄早稲田	かみのやま温泉
時刻表	Honjowaseda	Kaminoyama-Onsenn
当該駅ホーム	Honjowaseda	Kaminoyamaonsen
案内図	Honjo Waseda	Kmainoyama Onsen

これらの案内図を出しているのは J R ではなく、現地の観光協会などと思う。こういう不一致を見ると、地名や観光地のローマ字表記は、J R を含めて、交通や観光の関係者全体が協力して解決しなければならない問題であることが分かる。

第四グループでは、ハイフンがなく、時刻表と一致しないものが多い。このグループについては次節で考える。

3 語構成の無視

ローマ字表記の第二の問題点は、上の不統一にも関連しているが、日本語の語構成の常識が考慮されていないことである。

表 1 の第四グループの構造は「地名＋地名」である。これらでは複数の地名を連続させて駅名としている。

水沢江刺のような駅名は、沿線の自治体間で駅の誘致合戦があったときの妥協の産物なのであろう。しかしこの命名法の問題は表記とは別のことである。ローマ字表記の問題としては、この全体を一語とするか、二語とするかである。

日本語では、中国四国とか壱岐対馬のように、同格の地名を並べた語は二語として扱われる。一語となるのは、青函や阪神など略語の場合だけである。従って水沢江刺のような複合の駅名をローマ字で表記する場合は、二語に分離するか、続けるならば間にハイフンを入れるべきである。時刻表では一貫してハイフンを入れていて、語構成の常識と一致している。ところが各駅の表記では、日本語の語構造を無視して、これらを一語として連続させているが、その理由が不可解である。

在来線では「地名＋地名」という駅名がほとんど見られないので、参考にならない。花輪線の松尾八幡平がそれに当たるかもしれない。当該駅の表示では Matsuohachimantai であったが、隣の北森駅では Matsuo-Hachimantai であった。このように、少ない例でも不一致が見られるから、細かく探せばまだあるかもしれない。

最後にさくらんぼ東根駅の問題がある。この駅は昔の蟹沢駅を受け継いだ駅かと思われ

るが、既に隣に東根という駅があるので、それと区別して「さくらんぼ」を加えたのであろう。東根という同じ地名など付けず、「さくらんぼ」だけにしておくか、「新+東根」などにしておけば簡単であった。ところが食品「さくらんぼ」と地名「東根」はそれぞれ独立した全く関係のない語であるにもかかわらず、ホームの表示ではこれを連続させた。その結果、「トマト仙台」や「りんご福島」のような、日本語の構造に合わない形となったのである。

問題はそのローマ字表記である。新幹線は高架であるから、この駅は大きなビルの二階か三階にある。記憶では、そのビルの正面にはへボン式でない Sakuranbo Higasine という分割された形が出ていた。このビルには駅以外の施設も入っていて、ビル全体の管理はJR以外と思われる。従ってJR以外の責任でこの表記がされたと思われるので、表2では?を付した。ビルの中で駅へ向かう通路には Sakurambohigashine と出ている。これはJRの意志と責任で掲げられたものであろう。

日本語は分ち書きをしないが、ローマ字で複数の形式を表記するときは、切り離すかハイフンを入れるべきである。そうすれば外国人でも読み易くなり、駅の区別ができる。その点で Sakurambohigashine は不適切である。

しかし、このさくらんぼ東根のような新幹線の駅だけが語構成を無視した長い表記というわけではない。上述の松尾八幡平は当該駅では Matsuhachimantai、群馬県の上越線の高崎問屋町は Takasakitonyamachi、吾妻線の長野原草津口は Naganoharakusatsuguchi である。現地の駅やJR東日本は、外国人がこのような長い形を駅名として理解してくれると思っているのだろうか。

4 駅名以外の表示

ローマ字表記の第三の問題は、これも各JRに共通することであるが、ローマ字で駅の名前を表すのではなく、駅名の日本語の意味を説明しているものがある。

空港を例に挙げると、花巻空港駅のローマ字表記は Hanamaki-Kuko である。これは駅名をそのままローマ字にしているから、外国人にも「はなまきくこう」という駅名が分かる。JR東日本のこの表記は正しい。しかし2014年に見たJR西日本の米子空港駅のホームの表示は Yonago-airport であった。これは、「よなごくこう」という駅の名称をローマ字で表記したものではなく、駅名の意味を英語で表現したものである。

駅の名称は、「○○空港」や「○○公園」などであっても、その全体がその駅に付けられた固有名詞であり、地名や人名などと同じ性質のものである。北山形駅はローマ字で表記しても Kita-Yamagata であって、漢字の意味を英語にした North Yamagata ではない。同様に、「米子空港」のローマ字表記は、Yonago-Kuko であって、-Kuko の意味を英語で説明することではない。

花巻空港駅や米子空港駅は、空港そのものではなく、空港の最寄り駅であるから、空港

と区別して駅の名称としてはっきりさせる必要があるかもしれない。しかし成田空港駅や北海道の新千歳空港駅は、駅と空港が一体であるから、表記するのは日本語の駅名か駅の役割かが難しい。新千歳空港の隣の南千歳駅の隣駅表示では New Chitose Airport であった。客が目的の空港と一体化した駅に着くのであるから、Airport という説明でよいかもしれない。しかし「新～」を New と翻訳すると、新青森が New Aomori となって、駅名ではなくなる。原則の一部を変更すると、他のところに問題が出てくる。

翻訳では大胆な例がある。上越線に上越国際スキー場前という駅があり、そのローマ字表記は Joetsu International Skiing Ground であった。これは Joetsu という地名以外は英語による説明であって、駅の名称を全く表していない。これでは外国人に駅固有の名称を正確に伝えることはできない。このような例は他にもあると思われる。外国人も正確な駅名を知らなければ、いろいろ不自由なこともあるだろう。ローマ字表記＝英語という幻想を取り除く必要がある。

ローマ字＝英語という幻想について蛇足を一つ。本稿では平仮名の駅名をローマ字表記した場合を取り上げてきたので、最近できた「高輪ゲートウェイ」など片仮名の駅は対象とならない。「高輪ゲートウェイ」駅についてはテレビや写真で見ただけであるが、このゲートウェイという形は日本語を片仮名表記したものであろう。英語から直接片仮名表記すれば、ゲイトウェイとしなければならない。同じ音に一とイを当てているのは、外来語として日本語の中に定着した形だからである。しかしこの駅の問題はローマ字表記のところの Takanawa Gateway である。この Gateway は英語であり、日本語のゲートウェイをローマ字表記したものではない。これを見ても、J R 東日本では日本語のローマ字表記と英語との区別ができていないことが分かる。

5 姿勢の問題

駅名のローマ字表記は外国人に駅の名称を知らせるためのものである。ところが、時刻表と個々の駅の表記とが異なっていたり、一つの駅で2種類の表記が出されたり、日本語の語構成を無視した長い形式もある。このような姿勢では、ローマ字表記は、利用者に見てもらったためではなく、ただ習慣に従ってアクセサリとして出しているだけと思われても仕方がない。その上ローマ字表記と英語との区別がなく、駅名の意味を英語に翻訳した表示もあつたりして、駅の名称を伝えるという役目を果していないものも多い。

最近の日本は訪日観光客を増やすことを目標にしてきた。当時でも、J R 各社では、駅の出口などだけではなく、トイレや喫煙室でさえも、日本語の他に英語、中国語、韓国語が併記してある駅が多かった。それにもかかわらず、肝心の駅名のローマ字表記がこのような残念な結果であった。